越前和紙バレー創造事業整備計画

目次

1. 計画の概要と位置付け p.01

2. 計画について p.02

3. 実現したい効果とプロジェクトスケジュール p.03

4. 策定委員会 開催履歴 p.04

5. 整備事業一覧マップ p.05

6. 個別プロジェクト一覧 p.06-14

- 6-1　文化財修景・磨き上げ事業
- 6-2　越前和紙の里再整備事業
- 6-3　メインストリート景観整備事業
- 6-4　ホンモノ体感・ブランド価値向上施設整備事業
- 6-5　テナント施設整備事業
- 6-6　紙の森再生事業
- 6-7　体験プログラム造成・高付加価値人材育成事業
- 6-8　宿泊施設整備事業

1. 計画の概要と位置付け

1-1　観光まちづくりにおける越前市の強み

2024 年 3 月 16 日、北陸新幹線 越前たけふ駅の開業を迎えることができた。同じく 2023 年 11 月には国道 417 号 冠山峠道路が開通し、2026 年には 中部縦貫自動車道の全線開通を迎えることとなる。首都圏や中京圏とのアクセスが今以上に便利になる。2023 年 3 月に先行開業した「道の駅越前たけふ」は、オープンから 1 年で来場者 60 万人を突破するなど、多くの注目を集めている。もともと交通の要所であった越前市は、越前たけふ駅の整備により、新幹線駅、北陸自動車道 IC、幹線道路（国道 8 号）が半径 1km 以内に近接した交通結節点となった。

越前たけふ駅周辺は、丹南だけではなく、一乗谷朝倉氏遺跡・大本山永平寺など、嶺北エリアの主要観光地へのアクセスが良い。首都圏・中京圏からのアクセスの向上は、越前市の観光ゲートウェイとしてのポテンシャルをさらに高めることになると考えられる。

1-2　越前和紙バレー創造事業の必要性

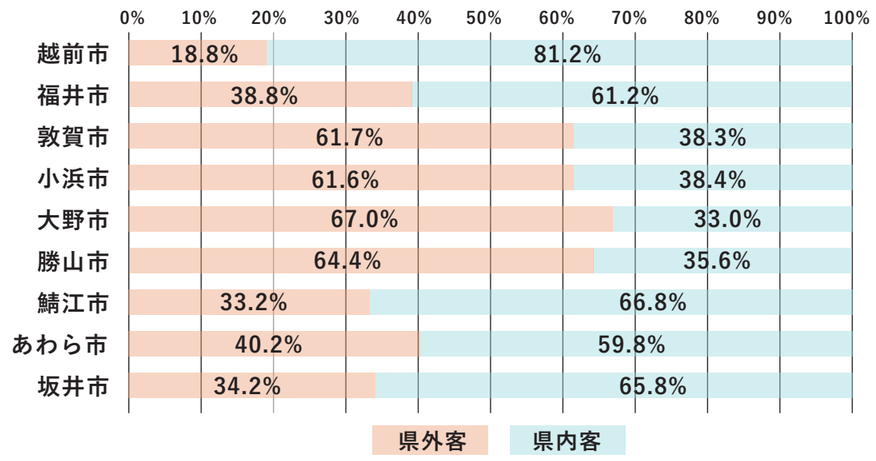
越前たけふ駅周辺から約半径 10km 圏内には、越前和紙、越前打刃物、越前箪笥、越前漆器、越前焼といった伝統的工芸品の産地や、眼鏡、繊維といった伝統産業の産地が集積している。越前たけふ駅周辺は、福井県の伝統産業へのアクセスが最もしやすいクラフトツーリズムの拠点となりうる。

越前市の年別観光客入込数はコロナ前の 2019 年度まで純増を続け、コロナ禍において一旦減少をみたものの、現在においても増加傾向が継続している。しかし、越前市の観光客入込数の県内外客の割合は、県内の市において最も県外客が少なくなっており、立地特性を観光まちづくりに十分に活かせていないことがわかる。また丹南地域全体の傾向として、県外客の宿泊率が少なく、地域経済への影響が限定的であることが想像される。

1-3　越前和紙バレー創造事業整備計画に求められるもの

越前たけふ駅の乗降客数は約 1,840 人／日と見込まれている。全国的に歴史的資源を活用した観光まちづくりの機運が高まる中、越前市においても越前たけふ駅設置を新たな来街者獲得に繋げる施策を講じていく必要がある。そのためにも、「来街者の満足度を高める滞在環境整備」、「人流をつくる産地ブランディング・マーケティング」といったハードとソフト両面で施策を検討していく必要がある。越前市では「手仕事」をキーワードに、2015 年ごろから産業観光に取り組み、地域らしいプログラムを提供してきた（第 16 回産業観光大賞にて、越前市の取組みが最高賞の“金賞”を受賞：2023 年）。このため、今後の計画では特にハード整備に対する視点が新たに必要となる。

2021 年度 観光客入込数の県内外客の割合　出典：福井県観光客入込数



1-4　計画の位置付け

越前和紙バレー創造事業整備計画（以下「計画」）では、福井県の「新幹線時代の観光地域スケールアップ支援事業」を活用し、越前和紙産地を中心に目指すべきエリアの将来像を実現するための具体的施策をまとめた。計画の策定においては、住民、民間事業者、業界団体関係者、行政等が構成員となる協議体「越前和紙バレー 創造事業整備計画策定委員会（以下「策定委員会」）」を組成し、その議論によって計画内容を検討してきた。本計画は、「新幹線時代の観光地域スケールアップ支援事業」の活用を前提としていることから、個別のプロジェクトの実現に向けて越前市の関係各課が連携し、越前市総合計画、越前市観光振興プラン等との整合性を確認しながら、具体的検討を進めていくことを想定している。

2. 計画について

2-1 計画の基本的な考え方

ビジョン

千年未来へ継承・発展するサスティナブルな「越前和紙 Valley」の創造

コンセプト

越前和紙 Valley エリアの滞在価値向上による「越前ファン」の創造・拡大

指針

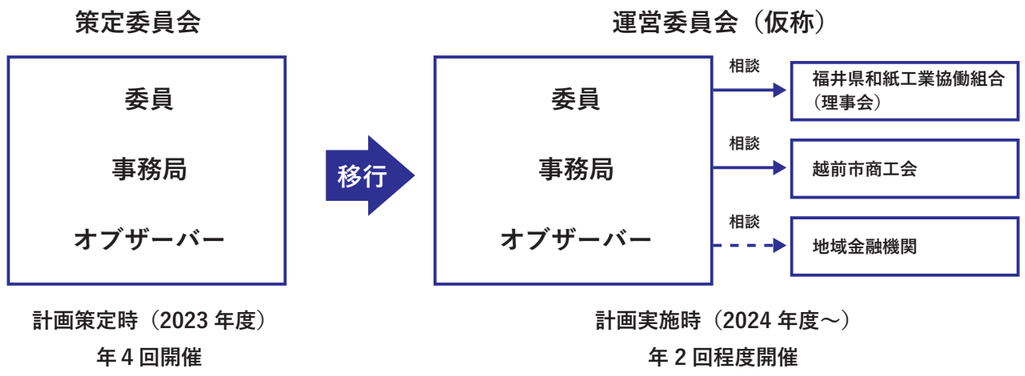
1. 産業観光を産地経済の活性につなげる。
2. 歩いて体感してもらう環境をつくる。
3. 産地内で活躍できる人を増やす（職人・じゃない人・関わりたい企業）。
4. 自然環境と共生した産地をつくる。
5. 北陸エリアを巡る人の流れとつなげる。
6. インバウンド産業観光の先端地になる。

2-2 計画の特徴

1. 個別プロジェクト

本計画は「新幹線時代の観光地域スケールアップ支援事業」（以下スケールアップ事業）を活用し実施する事業の内容を、策定委員会にて検討した内容をまとめたものである。スケールアップ事業申請時に記載された越前市各課にまたがる事業は、策定委員会での検討を受け、計８つの事業に、申請時の内容とずれることがないよう編集しなおした。事業によっては３カ年以上の実施期間が必要になるもの、2024 年度より事業詳細の検討を始めるものなど、進捗状況の違いがあったため、計画は８つの事業ごとの企画書という形式でまとめられている。またそれぞれの事業は実施主体が異なっている。このため各企画書に実施主体がどこになるのかがわかる区分を設けている。

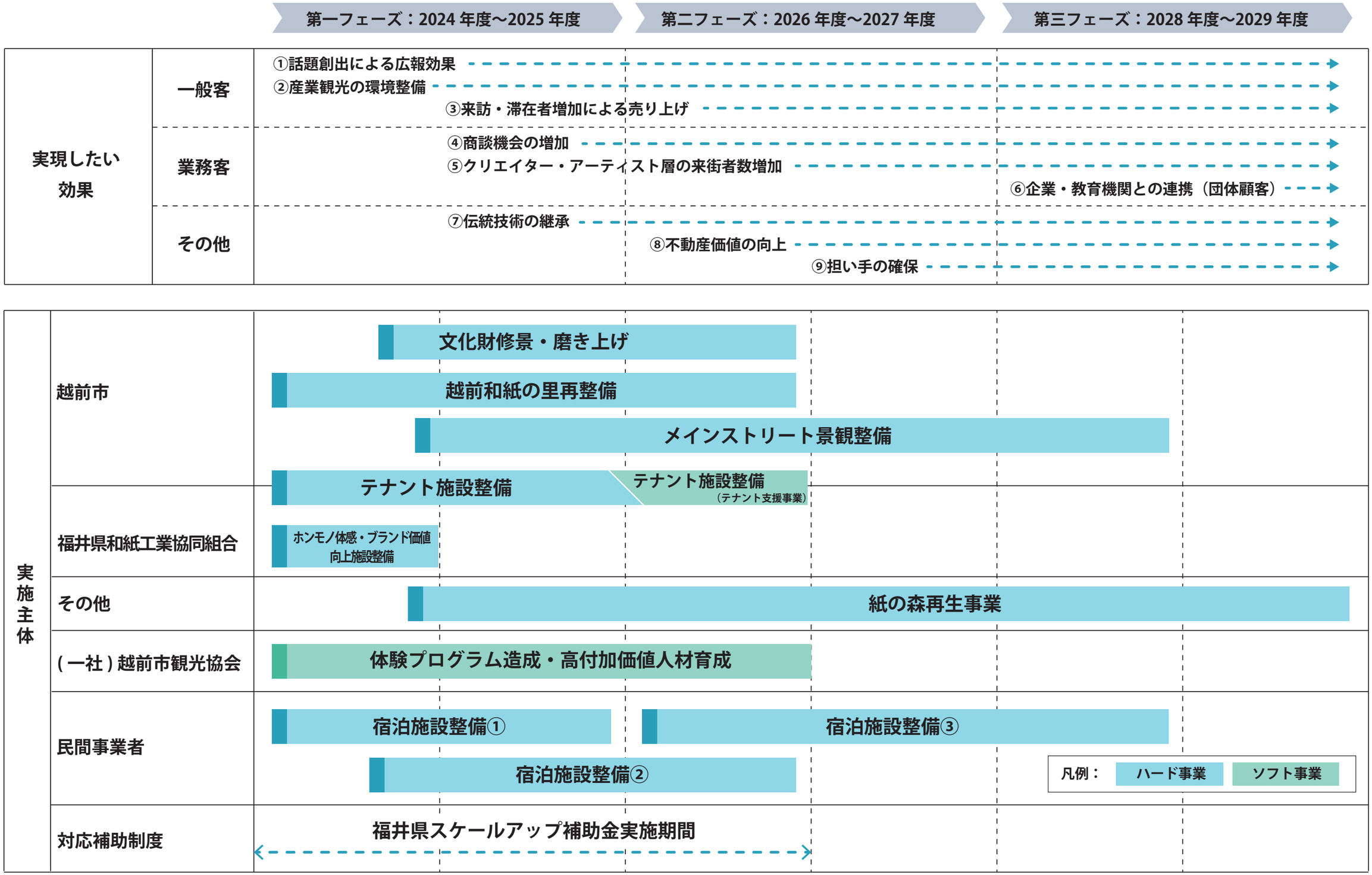
2. 策定委員会から運営委員会へ



本計画は P.4 に記載した策定委員により計４回の委員会を通じ検討された。本計画は 2024 年度から６カ年程度の実施期間を見込んでいる（スケールアップ事業の実施期間３カ年を超えて事業が継続されることを想定している）。この期間、計画の進捗を確認し、当初の狙いとズレがないかを事業実施と並行しながら確認をし続ける必要がある。

このため策定委員会は委員構成をそのままに、2024 年度より運営委員会（仮称）と組織名を変更の上、年に２回程度の進捗状況確認を行う想定としている。なお商工会や金融機関等への説明の際にも必要に応じ運営委員会での対応を行う予定でいる。

3. 実現したい効果とプロジェクトスケジュール



4. 策定委員会について

4-1 越前和紙バレー 創造事業整備計画策定委員会 委員構成

所属	役職	氏名	所属２
福井県和紙工業協同組合	副理事長	小畑　明弘	（有）小畑製紙所/ 岡本地区自治振興会会長
越前生漉鳥の子紙保存会	会長	栁瀬　晴夫	（有）やなせ和紙
和紙組合青年部会		山口　真史	山伝製紙（株）
和紙組合青年部会		清水　聡	清水紙工（株）
越前女紙倶楽部		山田　京代	山田兄弟製紙（株）
越前女紙倶楽部		五十嵐　匡美	（株）五十嵐製紙
和紙３館		南口　梨花	卯立の工芸館
〈事務局〉			
（株）デキタ	代表取締役	時岡　壮太	
（株）デキタ		堀　裕貴	
（一社）SOE	副理事	新山　直広	（合）TSUGI
（一社）SOE	理事	瀧　英晃	（株）滝製紙所
（一社）SOE	専務理事	濵本　絵里	
（一社）SOE		山田　美玖	
（一社）越前市観光協会		飯田　政利	
（一社）越前市観光協会		小形　真希	
越前市産業観光部	課長	迫下　啓樹	
越前市産業観光部伝統工芸振興課	課長	中島　康雄	
越前市建設部都市計画課	課長	江端　陽一	
越前市建設部都市整備課	課長	平井　康夫	
越前市産業観光部観光誘客課	副課長	山北　剛史	
越前市産業観光部観光誘客課	主査	上城戸　佑基	
越前市産業観光部観光誘客課	主査	河瀬　絵里子	
〈オブザーバー〉			
		石川　和伸	（株）石甚製紙所
		清水　康行	清水和紙（株）

4-2　策定スケジュール

策定委員会スケジュール

日付	委員会	内容
2/13(火)	第一回策定委員会	・着地型観光における越前和紙エリアの現状の共有 ・ホンモノ体感・ブランド価値向上施設整備の方針 ・宿泊施設整備の方針
2/26(月)	分科会	・ホンモノ体感・ブランド価値向上施設整備の方針
3/1(金)	第二回策定委員会	・ホンモノ体感・ブランド価値向上施設整備の方針 ・テナント施設整備事業 ・紙の森再生事業
3/13(水)	第三回策定委員会	・体験プログラム造成・高付加価値人材育成事業 ・メインストリート整備事業　　・テナント施設整備事業 ・和紙の里通り整備事業
3/21(木)	第四回策定委員会	・来年度以降の進め方について ・全個別プロジェクトの最終確認

第一回策定員会の様子

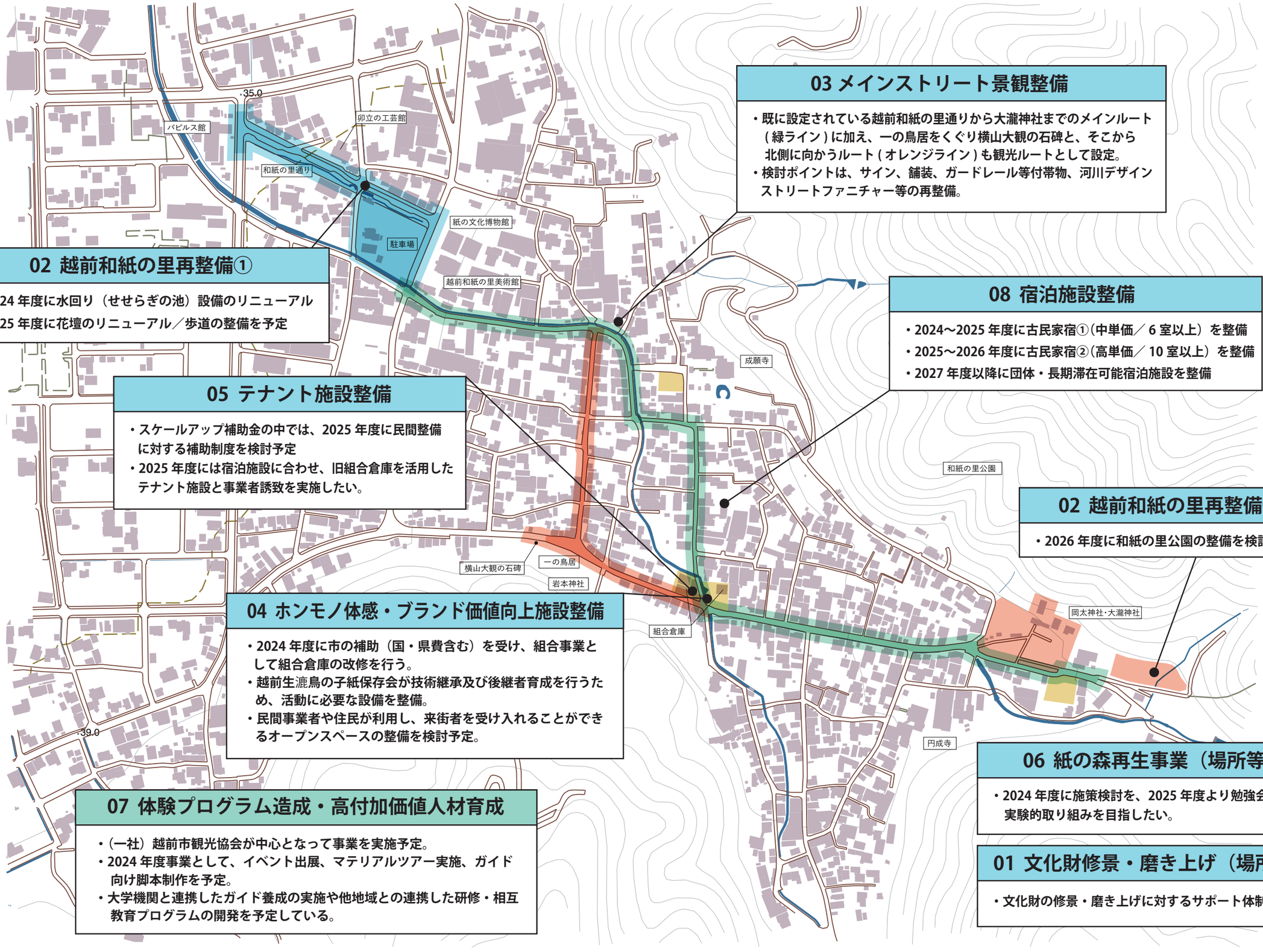
第二回策定員会の町歩きの様子

第三回策定員会の様子

専門家・事業者ヒアリング

日付	対象	内容
2/15(木)	（株）TIMELESS 代表取締役 永田宙郷氏	越前たけふ駅前の計画との連携について
2/23(金)	（一社）創造遺産機構 金野幸雄氏	五箇地区で検討中の自社事業について
3/13(水)	（株）ALL CONNECT 未来まちづくり事業部 奥山氏	自社による宿泊施設の整備方針について

5. 整備事業一覧マップ



03 メインストリート景観整備

- 既に設定されている越前和紙の里通りから大瀧神社までのメインルート（緑ライン）に加え、一の鳥居をくぐり横山大観の石碑と、そこから北側に向かうルート（オレンジライン）も観光ルートとして設定。
- 検討ポイントは、サイン、舗装、ガードレール等付帯物、河川デザインストリートファニチャー等の再整備。

02 越前和紙の里再整備①

- 2024 年度に水回り（せせらぎの池）設備のリニューアル
- 2025 年度に花壇のリニューアル／歩道の整備を予定

08 宿泊施設整備

- 2024～2025 年度に古民家宿①（中単価／ 6 室以上）を整備
- 2025～2026 年度に古民家宿②（高単価／ 10 室以上）を整備
- 2027 年度以降に団体・長期滞在可能宿泊施設を整備

05 テナント施設整備

- スケールアップ補助金の中では、2025 年度に民間整備に対する補助制度を検討予定
- 2025 年度には宿泊施設に合わせ、旧組合倉庫を活用したテナント施設と事業者誘致を実施したい。

02 越前和紙の里再整備②

- 2026 年度に和紙の里公園の整備を検討予定

04 ホンモノ体感・ブランド価値向上施設整備

- 2024 年度に市の補助（国・県費含む）を受け、組合事業として組合倉庫の改修を行う。
- 越前生漉鳥の子紙保存会が技術継承及び後継者育成を行うため、活動に必要な設備を整備。
- 民間事業者や住民が利用し、来街者を受け入れることができるオープンスペースの整備を検討予定。

06 紙の森再生事業（場所等未定）

- 2024 年度に施策検討を、2025 年度より勉強会、一部実験的取り組みを目指したい。

07 体験プログラム造成・高付加価値人材育成

- （一社）越前市観光協会が中心となって事業を実施予定。
- 2024 年度事業として、イベント出展、マテリアルツアー実施、ガイド向け脚本制作を予定。
- 大学機関と連携したガイド養成の実施や他地域との連携した研修・相互教育プログラムの開発を予定している。

01 文化財修景・磨き上げ（場所未定）

- 文化財の修景・磨き上げに対するサポート体制の構築

6. 個別プロジェクト一覧

6-1　文化財修景・磨き上げ事業

6-2　越前和紙の里再整備事業

6-3　メインストリート景観整備事業

6-4　ホンモノ体感・ブランド価値向上施設整備事業

6-5　テナント施設整備事業

6-6　紙の森再生事業

6-7　体験プログラム造成・高付加価値人材育成事業

6-8　宿泊施設整備事業

01 文化財修景・磨き上げ事業

民間	越前市	組合	観光協会

2024	2025	2026	2027	2028

五箇地区に点在する国、県、市指定文化財を対象に、市および民間が行う文化財の修景・磨き上げに対して支援を行う。2024 年度に支援事業の方針を決定できるよう検討を進めるとともに、同年度に先行して物件の調査を実施する。支援事業は 2025 年度から２カ年の予定で実施する。対象地域には越前市指定の文化財の約２割が立地しており、この地域での修景・磨き上げに関する事業の実施は、市全域の文化財活用にとっても大きな刺激になるものと考えられる。

1. 歴史的資源を活用した観光まちづくり

2016 年に政府によりタスクフォースが設置され、歴史的資源を活用した観光まちづくりが本格的にスタートしてから、すでに多くの地域で歴史的資源の活用を通じた観光まちづくりが推進されてきた。政府からは、2020 年に目標であった全国 200 地域での取組展開を達成したとの発表があり、すでに大きな成果をあげている。また 2018 年には文化財保護法が改正され、文化財保存活用地域計画ならびに文化財保存活用支援団体等の指定が制度化されるなど、文化財保存の観点においても官民一体となった活用の重要性が指摘されてきた。

越前和紙バレー創造事業においても、文化財と観光まちづくりを結びつけ、好循環を生む事業の造成を推進する必要がある。このため本事業では、官民一体となった歴史的資源・文化的資源のハード整備を推進していくことを目的に、市による文化財修景・磨き上げのサポート体制を構築する。

2. 県内の動き

福井県内においても歴史的資源を活用した観光まちづくりの動きがみられる。重要伝統的建造物群保存地区に選定されているような歴史的街区だけではなく、近年は一般的な漁村や農村部でも活用の動きがみられ、裾野が広がっている。中心的主体は、観光に携わる民間事業者によるもの、DMO を含む官民連携主体によるもの、本業ではないものの地域の事業者が新規事業として古民家活用を始める例など、多岐に渡っている。また歴史的資源の活用用途も宿泊施設や飲食店といった直接観光に関わるものだけではなく、食品加工施設や展示施設といった多様な用途がみられる。本事業において構築するサポート体制も、多岐にわたる主体や用途に対応できるフレキシブルなものにする必要がある。

参考例

八百熊川（若狭町）

事業主体は食品加工やツーリズム事業も手がける地元事業者。複数の事業を同地域で展開し、雇用の創出など地域経済に寄与している。

若狭佳日（小浜市）

開発は地域資本のまちづくり会社。運営は DMO。漁村全体を巻き込む観光施策の一環であり、複数の古民家等を活用した面的な展開を見せている。

sou's minka Luru（南越前町）

開発・運営は地域の工務店。地域を盛り上げたいと新規事業として古民家活用に取り組んでいる。宿の他、カフェも隣接する古民家で運営されている。

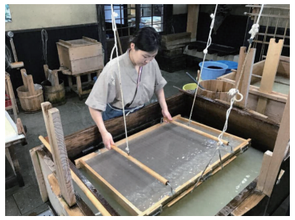
3. 市内の文化財

種別	国指定	国選択	県指定	市指定	合計
建造物	3件		1件	11件	15件
絵画			12件	32件	44件
彫刻	1件		6件	82件	89件
工芸	1件		6件	18件	25件
書跡・典籍			3件	6件	9件
考古資料			3件	10件	13件
歴史資料				11件	11件
無形文化財	2件		2件		4件
無形民俗文化財	1件	1件	2件	5件	9件
有形民俗文化財	1件		1件		2件
史跡			3件	5件	8件
名勝	2件		1件		3件
天然記念物			7件	9件	16件
合計	**11件**	**1件**	**47件**	**189件**	**248件**

表：越前市内の指定文化財一覧
(2022 年 12 月 27 日現在)

越前市には国、県、市から指定を受けた計 248 件の文化財がある。五箇地区はその中でも町並み・産業・歴史・文化・自然など、数多くの歴史的資源を有する地域である。越前市の指定文化財の２割が立地するこの地域において歴史的資源を活かした観光まちづくりを推進することは市内他地域を牽引することにもつながる。

岡太神社・大瀧神社



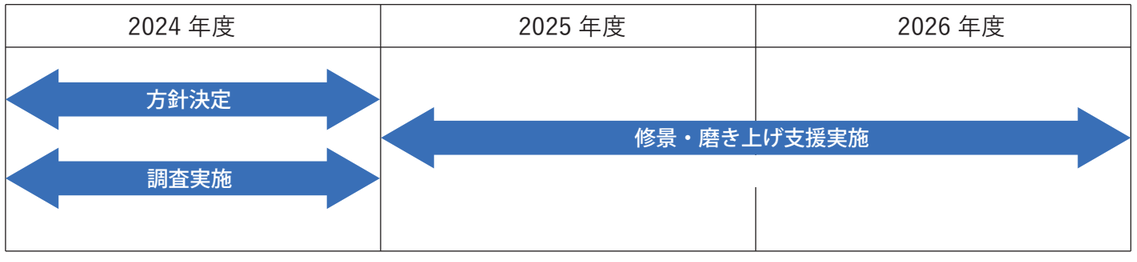
越前鳥の子紙

4. 施策

サポート体制

指定の種別（国、県、市）に応じて、民間が行う文化財の修景・磨き上げに支援を行う。すでに指定文化財に対して 1/2 の市補助が存在するが、本事業では 2024 年度に支援内容の詳細について方針を決定する。2025 年度より 2 ヵ年にわたり支援事業を実施する予定。

スケジュール（案）



補助率（参考）

対象：国・県・市の指定文化財が対象（予定）
現状の補助率：国指定 国で 1/2、残りを県、市、所有者で分担
県指定 県・市で 1/2、残りを所有者が負担
市指定 市で 1/2、残りを所有者が負担

02 越前和紙の里再整備事業

民間	越前市	組合	観光協会

2024	2025	2026	2027	2028

和紙の里通りは越前和紙の里の玄関口とも言える場所で景観に配慮された約 200m にわたるシンボルロードである。近年は、団体ツアーや教育旅行の受け入れ施設として使用されている。しかし整備から年数が経過し、痛んだ舗装面から水路設備まで景観を阻害してしまっている。越前和紙の里の整備に向け、産地観光にふさわしい修景を行うとともに、これからの観光に対応できる仕様の検討を行い、産地の持続可能性を感じられる地域のシンボルロードとして利活用されるよう、整備を進めていく。

1. 和紙の里通り主な現状の課題

越前和紙の里のシンボルロードとしての利活用という観点から以下の課題が想定される。特に整備後の経年劣化が目立つ箇所があり、③や⑤は優先的に整備する必要があると考えられる。

水がたまり景観上も望ましくない状態が続いている。

周縁部のタイルの破損、剥がれ植樹桝の破損が複数箇所確認できる。

和紙の里通りから五箇地区、パピルス館への連続性がみられない。

2. 目標像

- **産地観光にふさわしい玄関口・顔をつくる。**
- **住みやすい町 / 産業と暮らしが共存したまちというエリアイメージを伝える。**
- **イベント時の使いやすさ、機能性を確保する。**
- **地域住民の日常生活の豊かさに繋がる水辺整備を行う。**
- **産地の持続可能性を感じられる、維持管理の持続性を満たす、長期的視点にたった整備計画とする。**

3. 施策

①せせらぎの池に水景を取り戻す。

せせらぎの池のろ過機・ポンプのリニューアルを実施し、和紙の里通りに水景を取り戻す。

②イベント時に必要になる機能を整備する。

卯立の工芸館前、駐車場、せせらぎの池周辺、屋外ステージ周辺において、イベント時（地域のお祭り、RENEW 等の産業観光イベント、文化体験の実施等）に使用できる機能（水道、電源等）を整備する。

③子供があそべる環境整備

イベント広場周りの溜まり場等の整備を通じ、子供達が安全にあそべる場所を創出する。またその維持に関しての体制検討を合わせて行う。

④案内サインの拡充（メインストリート案内、駐車場案内）

和紙の里通りの東西の入口周辺、岡太・大瀧神社方向につながる動線、駐車場周辺等の案内サインを一体的に計画し、来街者の周遊喚起につながる環境整備を行う。

⑤劣化部分の修繕

持続可能性な産地のシンボルとして、歩道タイル、植樹桝等の経年劣化箇所の修繕を行う。

4. 検討の進め方

2023 年度においては整備の方針を検討するにとどまっており、2024 年度からのより具体的な検討が求められる。具体的な整備内容については、越前和紙バレー創造事業整備計画策定委員や福井県和紙工業協同組合関係者、地域住民による継続した検討会議の開催等が望まれる。

03 メインストリート景観整備事業

民間	越前市	組合	観光協会

2024	2025	2026	2027	2028

着地型の産業観光を通じ、和紙産業への理解の促進、新しいファン層の獲得を推進する際、地域の散策経路を決め、中心的に整備を行うことは、費用対効果からも景観の造成という観点からも効率的である。また散策経路の明示は、来街者が右往左往し不安を感じるのを防ぐだけでなく、業務用車両とのトラブルを避けることにもつながる。本事業では、メインストリートを決定し、越前市景観計画などに基づいたサイン類の整備、ストリートファニチャー類・道路付属物等の整備方針を定め、産業観光のための環境整備を実施する。

1. 現状の課題

メインストリートの景観を検討していく上で、現状以下のような景観上の課題が想定される。

① 仕様と記載情報が異なるサイン類

② 景観阻害要素となっている道路付属物

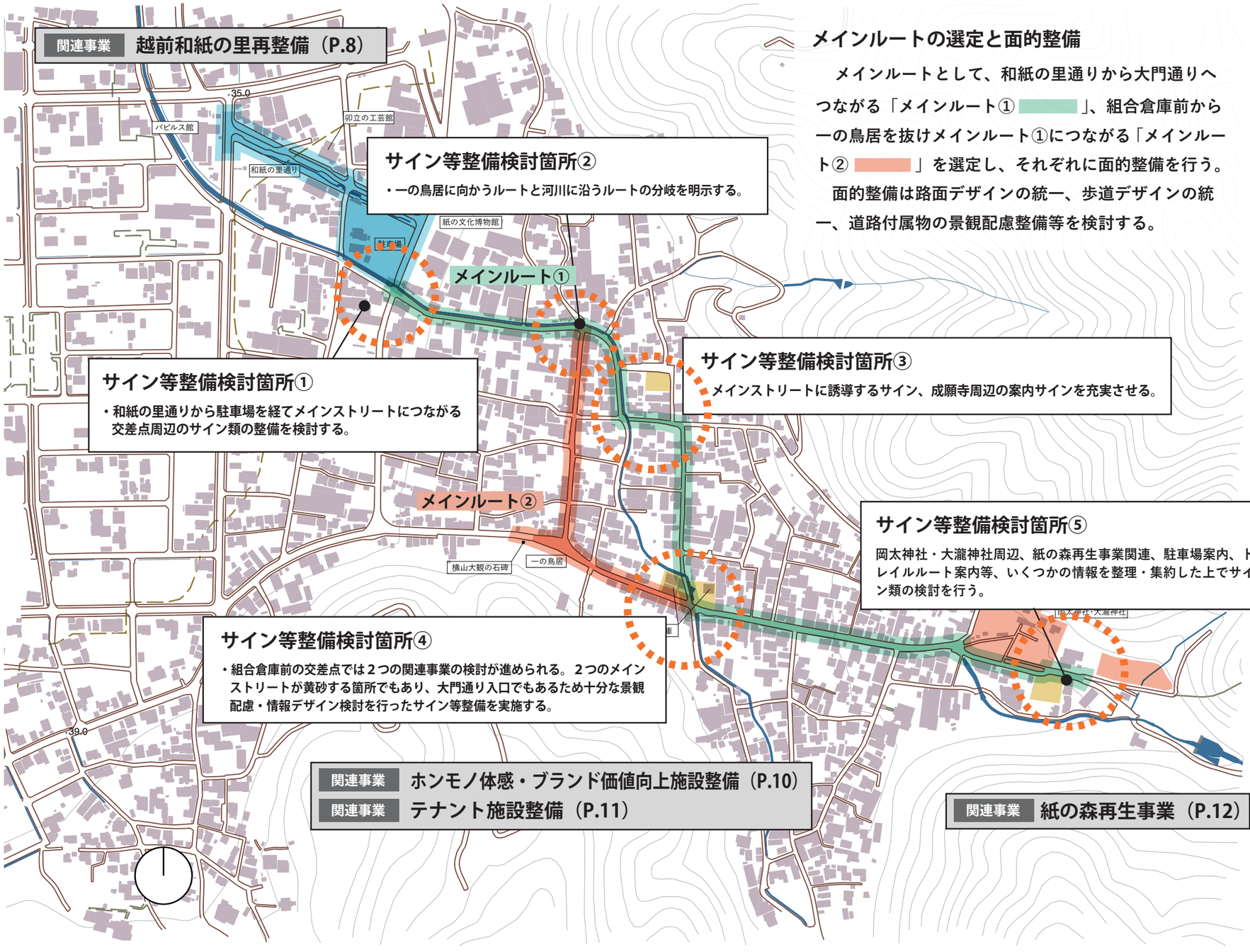
③ 河川周辺の整備・演出の不足

④ 夜間景観の整備（町歩きしやすい工夫）

2. 検討の進め方

2024 年度に、メインルート①、メインルート②の整備内容について、これまでのサイン整備の経緯を確認しながら計画を策定する。計画策定には県内在住のデザイナー等を起用し、デザインの観点も入れ整備内容を検討する。またその検討段階において運営委員会等での意見確認を行う。

3. メインストリートのルート設定と整備内容



メインルートの選定と面的整備

メインルートとして、和紙の里通りから大門通りへつながる「メインルート①　」、組合倉庫前から一の鳥居を抜けメインルート①につながる「メインルート②　」を選定し、それぞれに面的整備を行う。

面的整備は路面デザインの統一、歩道デザインの統一、道路付属物の景観配慮整備等を検討する。

04 ホンモノ体感・ブランド価値向上施設整備事業

民間	越前市	組合	観光協会

2024	2025	2026	2027	2028

ユネスコ無形文化遺産「和紙：日本の手漉和紙技術」への追加提案が決まった「越前鳥の子紙」の拠点施設として、市の補助を受けた福井県和紙工業協同組合が組合倉庫を増改築し、越前生漉鳥の子紙保存会が技術継承及び後継者育成を行うための「鳥の子紙保存研修施設」（以下研修施設）を整備する。2024 年度に研修施設としての具体的な運用方針などを検討し、設計・整備まで実施する。

1. 整備内容

⑴ 越前生漉鳥の子紙保存会が技術継承及び後継者育成を行うために必要な施設を整備する。
⑵ 多目的なオープンスペースの整備を検討する。

物置①
和紙の原材料
道具などを保管する

物置②
漉いた紙を保管する
※５年間保存

作業場①（湿式）
和紙原料の煮熟
ちりより、原材料攪拌を行う
バーナー、羽釜
ちりより用水槽、
攪拌機、圧搾機を設置

作業場②（湿式）
叩解、流し漉きを行う。
叩解台、漉き舟２台、
水槽を設置する。

作業場②（乾式）
紙の乾燥を行う
乾燥機、作業台を設置

オープンスペース（予定）
会議、座学研修や講演会などを行う。また、鳥の子紙の歴史や特長の説明を行うパネルやサイネージなどの整備を検討。イベント時に活用できる流し台などの整備を検討。

2. 空間の検討ポイント

⑴多目的な利用を想定するオープンスペース（予定）

（例）カフェ営業が可能な流し台

（例）組合主催の和紙漉き体験

（例）物品の展示・販売スペース

（例）ツアー事業の受付スペース

⑵未利用時にも景観に良い影響を与える外部空間の設え

（例）緑豊かな景観の整備

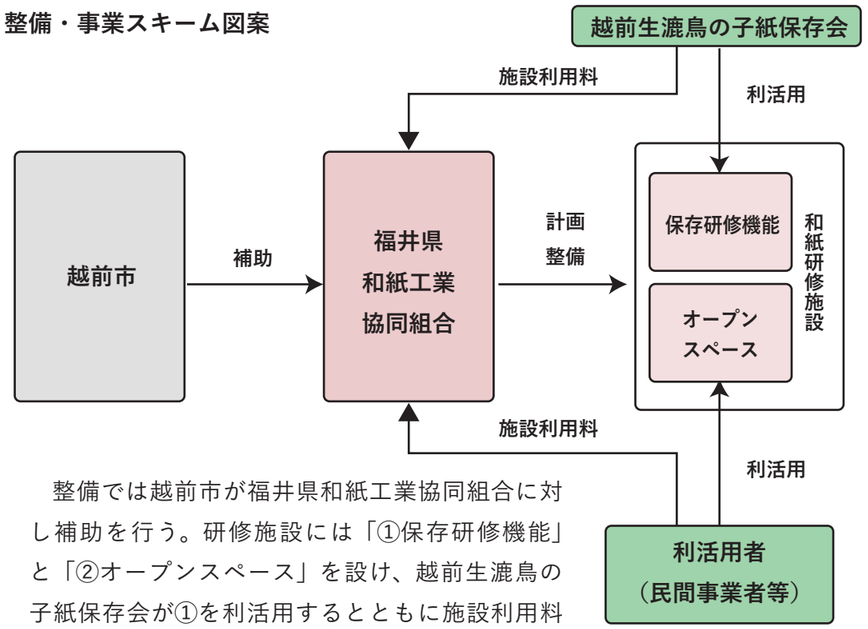
（例）夜間景観を演出する照明

（例）壁面を活用した物販・ギャラリー

（例）施設前広場の活用

3. 整備・運営事業スキーム案

整備・事業スキーム図案



整備では越前市が福井県和紙工業協同組合に対し補助を行う。研修施設には「①保存研修機能」と「②オープンスペース」を設け、越前生漉鳥の子紙保存会が①を利活用するとともに施設利用料を支払う。オープンスペースは民間事業者等が利活用し、施設利用料を支払う。施設利用料は施設の維持管理に活用する。

4. オープンスペースの活用案

オープンスペースでは以下の表のような活用内容が想定される。施設の維持管理には高熱水費の他、定期的なメンテナンス費用が発生するため、越前生漉鳥の子紙保存会だけではない利活用が必要となる。

活用案	年間利用日数（想定）
週末やイベント時に行う飲食店のチャレンジショップ	20 日
作品の展示、新商品の販売スペースとしての利用	30 日
鳥の子紙の公式の見学会や懇親会	2 日
ワークスペースとしての利用	20 日
合計	72 日

05 テナント施設整備事業

民間	越前市	組合	観光協会

2024	2025	2026	2027	2028

観光誘客を目的に、五箇地区に民間事業者が出店するためのテナント施設を整備する。民間事業者によるテナント整備に対しての補助、また出店する事業者をサポートする補助制度を検討する（物販、飲食、展示施設等を想定）。テナント出店により来街者の滞在時間や満足度の向上、和紙関連商品の消費額増を目指す。合わせて雇用機会の増加、住民の暮らしの満足度向上も実現する。先行プロジェクトとして、旧組合倉庫の土地もしくは建屋を活用し、テナント施設整備の検討を行う。

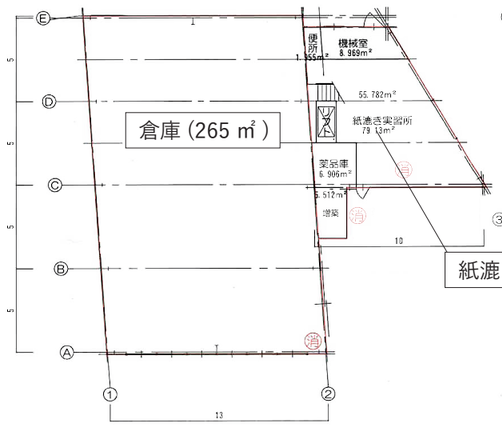
1. 補助・補助制度の内容検討

テナント施設もしくは店舗を整備する際の補助・補助制度を検討する。対象者としては、テナントを受け入れるための施設を整備する側、テナントとして実際に出店をする側、両方を想定している。対象経費としては設計費及び工事費、什器や食器などの備品購入費等を想定している。

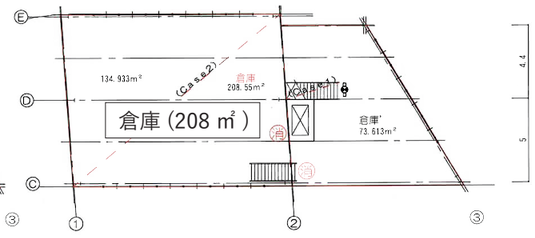
2.【先行プロジェクト】旧組合倉庫の現状整理

・紙漉き実習室は青年部が年に数回使用している。
・倉庫には原材料や過去作品などが保管されているが、新倉庫に移動可能な物量である。
・アスベストが残存しており、処理が必要。

1 階



2 階

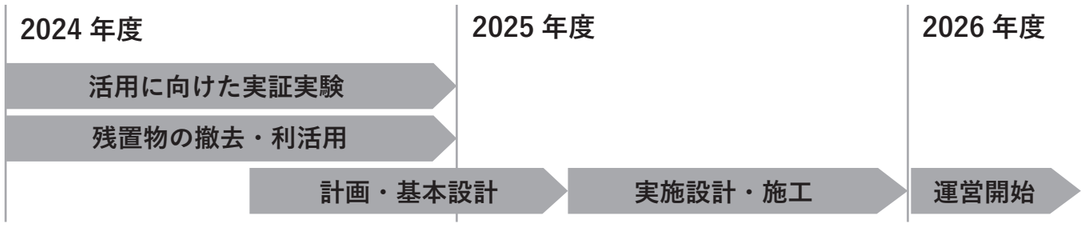


3.【先行プロジェクト】必要機能の検討

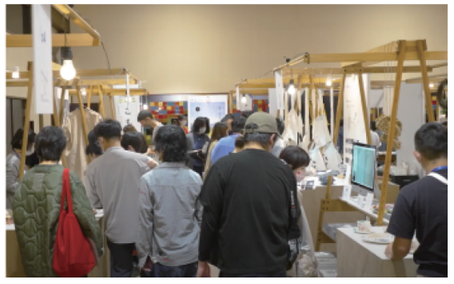
倉庫部分を、産業観光に訪れる方のインフォメーションの役割をもつカフェレストラン機能や、宿泊やツアーの受け入れを行うレセプション機能などを軸に整備を検討。他にも複数事業者の出店やチャレンジショップの受け入れを検討していく。

カフェレストラン機能	宿泊やツアー事業の レセプション・物販機能	その他の出店
飲食物の提供（宿泊の朝食なども） 物販スペース、ライブラリー	物販スペース、レンタサイクル チェックインラウンジ、事務所	

4. 事業スケジュールイメージ



2024 年度は民家事業者が主体となって組合倉庫を活用した取り組みを行い、組合と共に場所の可能性を検討していく。同時に残置物の撤去を行う。



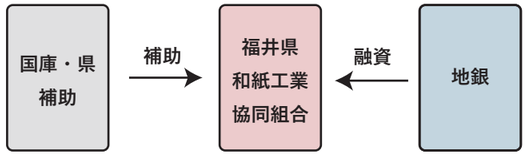
（例）マーケット

（例）トークイベント

5. 事業スキームイメージ

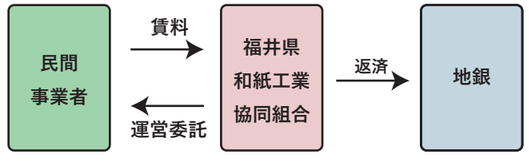
解体・改修

解体費や工事費を補助事業を活用して建設。県や国の補助事業を活用し、和紙組合の負担を最小限に改修する。



運営

運営は民間事業者へ委託し、賃料を和紙組合が受け取る。賃料から融資の返済を行っていく。



06 紙の森再生事業

民間 | 越前市 | 組合 | 観光協会 | その他

2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028

近年の豪雨災害の増加、獣害被害の拡大を受け、中山間地および谷地の集落においても、改めて身近な自然環境の保全、手入れが求められている。本事業においては、五箇地区周辺の人工スギ林の段階的伐採、植え替えを検討、実施していく。この過程において五箇地区在住の小中学生に植樹の機会を提供する、植え替え樹木にミツマタ等を加え記念紙の原材料をつくるなど紙漉きの里としての教育事業、地域ブランディングにつなげていく。

1. 今立地区の人工スギ林の現状と事業の狙い

人工スギ林の現状

越前市の面積のうち森林が占める面積は 14,186ha と約 6 割を占めている。そのうち個人、市及び県が所有している森林、すなわち民有林が 14,131ha あり、民有林が 99. 6% を占めている。また民有林のうち人の手が入っている森林、すなわち人工林が 7,805 ha と民有林の約半数が人工林となっており、そのほとんどがスギ林となっている。特に味真野、今立地区はその中でも早くから植樹が行われたため樹齢の高いスギ林の割合が高い地区となっている。

岡本・南中山・服間地区はここ 10 年（2012 年～2022 年）の人口減少率が -15% 以上と市内でも高いエリアとなっており、今後の人工スギ林の維持管理の課題となっている。

本事業の狙い

本事業では上記人工林の現状を踏まえ、越前和紙バレー創造のため人工林の段階的伐採、植え替えを検討、実施していく。本事業の狙いは以下の通り。

①自然災害・獣害の予防

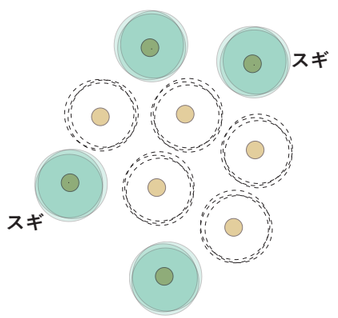
手入れが行き届かず、樹齢が高くなった杉林は 山全体の保水力維持という観点では問題がある。獣の活動範囲が里側に降りてくるなど獣害の発生にもつながる。

② 自然景観の質向上

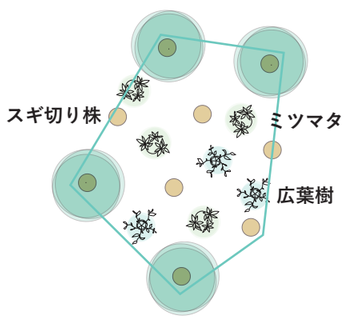
インバウンド観光の増加によって、自然資源との共生という視点で伝統工芸産地の森林が注目される機会が増えてくると考えられる。森林の再生は長期的な目線で産地観光を考える際必須になる。

2. 伐採と植樹方法

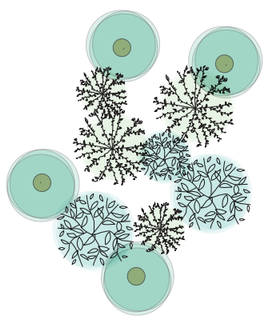
五箇地区の人工林の植え替えの際には、既存林を活かした段階的な植え替えを計画する。既存林は 1/3 程度を残して伐採し、材は資源として買取をしてもらう。残った杉に鹿よけネット等を設置し、切り株を残したまま、ミツマタなど紙の原料、成長の早いクヌギ等の広葉樹を植樹する。



Phase1：密集した人工スギ林の伐採



Phase2：鹿ネットの設置と植樹



Phase3：広葉樹の育成管理

3. 植樹林の観光活用（案）

以下３つの植樹林の利活用を図っていく。本事業を持続的なものとするため、産地観光の取り組みの一貫として、来街者の増加、地域ブランディングへの好影響という観点を重視する。

案１：小中学生による記念植樹

地域の小中学生を対象に植樹の機会を提供する。植樹した木は自分たちの木として管理にも定期的に関わり、地元の森を育てるメンバーとなってもらう。
また育成後はその木を活かした紙漉きに参加し、記念紙として卒業式や成人式で使用する。

案２：植樹林を活かしたプロダクト製造

植樹林から紙の原材料を得て、和紙製品を製造、販売を行う。紙の森の再生というメッセージ性とともにプロダクト開発・販売を行うことで、活動原資を得るとともに、地域ブランディングにつなげていく。また和紙工業組合の物販店等、産地内での販売を行う。

案３：植樹、育成体験の販売

伝統工芸産地での自然環境再生という取り組みは SDGs の観点より教育価値が高いと考えられる。自然再生の現場をみたい、SDGs の取り組みに参加したい、カーボンニュートラルに取り組みたいといった方々に対し植樹や育成の体験、実際の紙漉きを体験プログラムとして提供し、新たな関係人口を獲得する。

4. 事業の進め方

本事業は、人工スギ林の所有関係を確認しながら、産業関係者、地区住民、教育関係者などが連携し進めていく必要がある。事業検討・開始時は本委員会委員が声かけを行い、有志による現地確認から開始し、徐々に関係者を増やしていくことが望ましい。また市としても植樹活動にかかる実費の負担などについて検討していく必要がある。

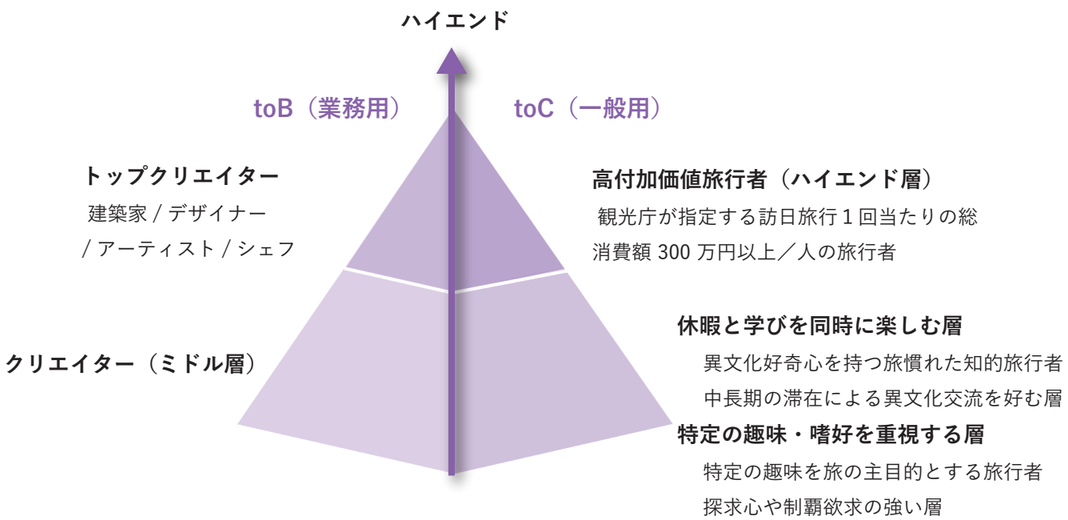
07 体験プログラム造成・高付加価値人材育成事業

民間	越前市	組合	観光協会

2024	2025	2026	2027	2028

和紙産業の新たな売り上げを確保するため、新規の顧客開拓が欠かせない。越前和紙の生産額が減少傾向をみせる中、業務用の顧客開拓は、単価が高く、歴史性・特別感を評価してくれる層へと販売チャンネルを広げていく必要がある。本事業では、新規の顧客開拓につながるよう業務用、一般用それぞれに対し、産地と商品の「伝え方の開発」と「伝える人材の育成」を行う。単なる物見遊山ではない産業観光のあり方を模索していくことで、地域の売り上げ増加、産地の持続に貢献できる産業観光のノウハウ蓄積を目指す。

1. ターゲットイメージ



2. toC 対策

一般用（toC）の施策として、以下の事業を検討、実施する。

① モニターツアー実施に向けたガイド脚本の制作

正しく産地の情報、製品のポイントを伝えるため、ガイディングのプロによるガイド向け脚本の制作を外注する。脚本に基づき必要な情報を伝えることで、ガイディングの質の担保と提供情報の統一を進める。

②ガイドによるモニターツアーの実施

①の成果をもとに実際に脚本を使用したガイディングをモニターツアーを通じて実施する。インバウンド需要の増加に合わせ外国語でのガイドについても導入検討を行う。

③エリア外との連携体制の構築

北陸新幹線延伸にともなった観光需要の喚起のためにも、産業観光に関係する他エリアとの連携を模索し、より新規顧客への訴求力を高める検討を行う。

④受け入れ窓口の統一

②を実際に運用していくため、問い合わせ・申し込みの窓口の一本化を進めていく必要がある。問い合わせ先を統一して周知する、事業説明用 HP、パンフレット等の制作を行うなど利用者、協力事業者にとっても分かりやすい予約、相談動線のあり方を検討する。

3. toB 対策

①イベント出店

インテリア関係･建築関係者向けのイベント（BAMBOO EXPO 等を想定）への出店を検討する。イベントの出店にあたり、必要な広報物、展示方法の検討も行うとともに、販売に従事するスタッフの教育も専門家の助言を得ながら進めていく。

②マテリアルツアー

①のイベント等での PR も経て、toB 向けの産地ツアー（マテリアルツアー）をモニターツアーとして実施する。toB 向けにどのような説明をすればよいかを事業者と専門家が一緒になって検討する機会を複数回設け、シナリオを作成する。ターゲットや先方のニーズに合わせ、説明方法も変わってくることが想定されるため、シナリオは複数のパターンを用意することが望ましい。

③ 受注までの体制整理

①､②と並行しながら実際に新規顧客獲得に至るまでの流れを整理し、対策を講じておく必要がある。場合によっては問屋も含め①､②の開催後の参加者情報を共有するなど、機会損失にならないよう受注につながる体制の整理も同時に進めていく。

4. 高付加価値人材の育成

①大学機関と連携したガイド養成の実施

地元大学機関と連携し、ガイド人材の養成を行う。「２」「３」の結果を受け、必要な人材像を明確にした上で、大学機関の人的資本も活用したプログラムの検討を行う。

② 大学機関への現場ノウハウの提供

①の実施と並行し、県内の観光ガイダンスのレベル向上のため、大学に対し現場で得られた経験値や注意点を共有し、教育プログラム造成を進める。

③ 他地域との連携した研修・相互教育プログラムの開発

主に北陸の伝統工芸産地等と連携し､①②のプログラムの一貫として、相互交流・相互教育の機会を創出していく。

08 宿泊施設整備事業

民間 | 越前市 | 組合 | 観光協会

2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028

産業観光の拠点となる宿泊施設を整備する。越前和紙の価値に共感する多様なターゲットの受け入れを目指し、古民家や文化財を活用した産地ならではの宿泊施設整備を目指す。宿泊客が工房見学や体験事業を行うこと、宿泊施設自体を商談会場として利用すること、整備段階で宿泊施設の建築や装飾に越前和紙を利用することによって、産地事業者の収益増加を目指す。これは職人にとっても来街者との直接的な接点となり、消費者の生の声やを聞く機会にもつながると考えられる。

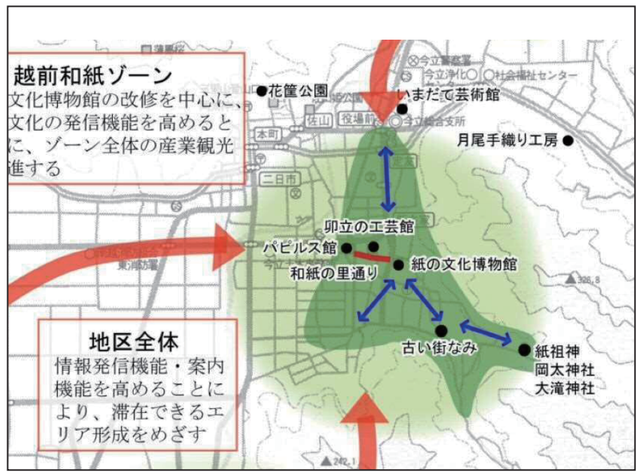
1. 整備の方針

①「越前和紙の価値に共感する多様なターゲット」が滞在するために複数の宿泊施設を整備。

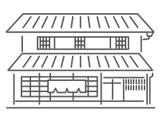
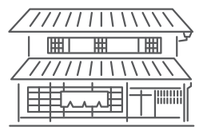
工芸に対しての理解が深まる文化体験型の宿泊施設、ハイエンド層をもてなす上質なホテル、団体で使用できる（和紙づくりを学びにきた研修生等も利用できる）施設などの、タイプが異なる宿泊施設を段階的に整備することを想定する。地域にある空き家や文化財を活用し、ツアー・工房体験や観光ガイドなどのソフト事業とも連携する。

②五箇地区に集積させる

上記複数の宿泊施設は五箇地区に集積させることが望ましい。複数の宿泊施設を近い距離に集積させることで、産地ガイドや体験プログラムを共同で提供する取り組みにつながる。また工房やファクトリーショップへ宿泊施設からアクセスしやすいことは利用者の満足度向上につながる。宿泊施設の集積により、飲食店や土産店などのテナント出店を呼び込みやすい環境が生まれる。



2. タイプの異なる宿泊施設のパターン例

	①文化体験型の古民家ホテル	②文化財を活用した上質なホテル	③中長期滞在者向け宿泊施設
時期	2024 年度　整備開始予定	2025 年度　整備開始予定	2027 年度　整備開始予定
ターゲット	・知的好奇心の高い旅行者 ・ものづくりの産地とつながりたいクリエイター層	・高付加価値旅行者（ハイエンド層） ・国内外のトップクリエイター	・工房で修行したい研修生 ・産地で研修を行う団体 ・美大生などものづくりを学ぶ大学
整備方針・客室単価	五箇地区にある複数の古民家を改修した分散型の宿泊施設を整備。越前和紙を設えた客室で工芸のある暮らしを体験することができる。職人との交流を楽しむことができるバーラウンジの整備や、工房見学の実施など、産地の事業者が観光客とより密接にコミュニケーションを取ることを目指す。 客室数：6 室以上（収容人数 4 名 / 室） 客単価：1.5 万円～	文化財に登録されている建物を活かした上質な宿泊施設。伝統工芸をふんだんに用いたショールームとしての客室や、福井県の豊かな食材を活かした料理を提供し、食を通して伝統工芸の魅力を伝えられるレストランを備える。 客室数：10 室以上（収容人数 2 名 / 室） 客単価：4 万円～	職人の後継者や、工芸の伝え手の育成に寄与する中長期滞在向けの宿泊施設を整備する。また、通年型スクール事業の受講生など継続的に産地に関わり続ける人材や、企業の研修の受け入れなどの役割も果たし、教育的価値や協業価値を提供できる産地を目指す。 客室数：20 室以上（収容人数 1,2 名 / 室） 客単価：5,000 円～
必要機能の整理	**メイン棟**  ・レセプション（ツアーの受付も行う） ・事務所、厨房、清掃用倉庫 ・宿泊者と職人が交流できるカフェバー ・ギャラリー　・ショップ ・レンタサイクルスポット ・スタッフ用も含めた十分な駐車場 **分散型の客室** ・越前和紙を設え、工芸のある暮らしを体験できる客室。 ・一棟整備から事業を成り立たせられる客室数の完備。 ・規模が大きい場合には、複数室の整備を検討。	**フロント棟** ・食を通して工芸の魅力を伝えることのできるコース料理を提供するレストラン ・フリードリンクを楽しむことができるラウンジ ・工芸品を展示するギャラリー ・離れや茶室、蔵など、お屋敷を構成する様々な建物を活用した客室 ・庭園の眺望をいかした設え	**中長期滞在向け宿泊施設**  ・家電が備え付けられたシェアキッチンスペース ・滞在者同士が交流できるラウンジスペース ・ランドリースペース ・作業環境が備えられた個室

越前和紙バレー創造事業整備計画

2024 年 3 月第一刷
発行：越前市
編集：株式会社デキタ